

人間発達支援領域

本領域の発達科学に関する分野では、教育心理学、発達心理学、障害学などについて研究を行うとともに、乳幼児期から老年期までの生涯発達の理解を目指します。発達科学に関する高い専門性を身につけ、人や社会に対して客観的な視点を持ち、科学的思考および問題解決ができる人材を育成します。

幼年教育分野では、行政・保育者・保護者・社会にまつわる現代的課題を踏まえて、幼児教育や幼児心理、保育内容の観点から、乳幼児期の健全な発達を保障する教育や保育について研究します。保育に関わるさまざまな現場で、高い専門性を備えて実践をリードできる人材を育成します。

なお、本領域には入学後の研究分野として、教育心理学、障害学、幼年教育の3つの分野があります。

以下、3つの分野について紹介します。

教育心理学分野

教育心理学分野では、「行動科学としての心理学」の観点から、発達、教育、社会、認知心理学領域の研究を進めています。

教員・研究室紹介（五十音順）

木暮照正

研究領域は認知心理学、教育心理学、メディア心理学で、心理学の視点から成人発達・成人学習・成人教育について研究するとともに、インターネット調査などを通じてサイバーコミュニケーションの特徴についても研究しています。

住吉チカ

認知心理学を基盤に、認知機能障害、障害の測定法、機能的転帰を中心に研究を進めています。テキストマイニングなど、新しい解析手法を心理学に取り入れることにも興味を持っています。

高谷理恵子

専門は「発達心理学」で、発達に影響を及ぼす諸要因について検討しています。以下のような研究を実施しています。

- ・乳幼児の動きの発達に関する研究
- ・東日本大震災後の福島の子どもたちとその家族のメンタルヘルス研究
- ・子どもの発達を支援するための実践研究

富永美佐子

青年期の発達について研究しています。具体的には、学校生活と進学、働くことなど、現在と将来をつなぐ「進路（キャリア）」が主なテーマです。

飛田操（社会心理学研究室）

対人関係に関する諸問題や集団と組織に関する諸問題を社会心理学的なアプローチから解明しようとしている研究室です。

障害学分野

障害学分野では「能力の多様性と理解」をテーマとして、実証研究に取り組んでいます。

具体的には、

- ・ 障害特性に関する研究
- ・ 障害理解に関する研究

などです。

詳しくは、以下のHPをご覧ください。

<https://www.ad.ipc.fukushima-u.ac.jp/~h034/jtaka/index.html>

幼年教育分野

幼年教育分野では、主として幼児教育における子ども理解や保育実践に関するテーマの研究をすすめています。

担当教員は、幼児教育（[保木井啓史](#)），保育内容（[齋藤美智子](#)），幼児心理（[原野明子](#)）の3名からなり、それぞれの専門を生かしながら指導にあたっています。

現在在学している大学院生は、学類卒業後のストレートマスターです。保育士の早期離職についての研究や、里親やファミリーホームへの委託が増える中での課題や今後の展望について研究をすすめつつあります。

なお、これまでの本分野への入学者は、保育者や教員を退職し、自身の実践を振り返り、学びなおしたいという方が少なくありません。